

『熊谷の子どもたちは、これができます!』

4つの裏技 アクセル

- ①朝ごはんをしっかり食べる。
- ②呼ばれたら「はい」と元気に返事をする。
- ③「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。
- ④友だちをたくさんつくる。

3減運動 プレーキ

- ①テレビの時間を減らします。
- ②ゲームの時間を減らします。
- ③スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。

別府小だより

No. 3

平成29年5月25日



学校教育目標

高い目標と自律、共生の心を持った児童の育成

進んで学習する子 他人を思いやる子 体力・活力のある子

子どもは未来を生きるもの ~今やるべきこと

熊谷市立別府小学校長 堀越 尊夫

新年度がスタートして、夏休みまでちょうど半分となりました。木々の葉が色濃くなり、この時期としてはかなり暑い日が続いています。そんな中でも別府小学校の子どもたちはとても元気で、休み時間には楽しそうな歓声が広い校庭に響いています。今年度は特に、若い先生方と子どもたちが夢中になって遊んでいる姿が目につき、とてもほほえましく思っています。やはり学校は楽しいところでなければならないと思います。

ところで、以前『中等教育資料』という本の中で有名な相田みつを氏（書家、詩人）の長男である一人氏が、PTA活動に熱心で小学校や高校でPTA会長を務めた父について次のように述べています。みつを氏がPTA会長として活動されていたころのノートが見つかり、以下の三箇条のメモを見てはっとしたそうです。

- 1 私たちは未来の社会を予測できない。
- 2 子どもは、その未来の社会を生きるものである。
- 3 その時親の手は届かない。



だから、子どもをどんな社会にも正しく適応し、たくましく生きられるように育てておくことが、親の大事な務めなのだということ、そして、学校教育もPTAもその延長上にあるべきだというみつを氏の思いが続いていたそうです。

学校は楽しくなければなりません、レジャーランドではありませんので、それが目的ではありません。楽しさも単に遊びの楽しさではなく、できなかった事が出来るようになり、わからなかった事がわかるようになり、頑張ったり協力したりした結果、達成感や成就感が得られる楽しさやうれしさであるべきと考えます。

ただ、そのためには困難を乗り越える力も必要です。難しいこと、大変なことこそやり遂げたときの喜びが大きくなります。少しの失敗にめげず、最後まで頑張り抜く子になってほしいと思います。熊谷教育の指針である幡羅高等小学校の「訓練の要旨」のなかで、「『楽』を感得させるためには、多くの『苦』を経験させなさい。」と述べられています。

社会は日々変化し、学校に求められることもどんどん増えています。新しい取組が次々始まっています。子どもたちが喜ぶことはなるべく残したいとは思いますが、限られた時間の中では思い切った改革も必要です。未来で輝く子どもたちに「生きる力」を身に付けるために欠かせないもの、どうしても学校でなければできないものは今後も維持発展させていきます。学校の本分である「知・徳・体のバランスのとれた児童の育成」に全力で取り組んでまいりますので、今後も皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

児童の交通事故防止に向けて

交通事故防止『5つの行動』

- ① **も**しかして【危険予測】
- ② **と**まる【一時停止】
- ③ **み**る【安全確認】
- ④ **ま**つ【安全確認】
- ⑤ **た**しかめる【再確認】

学校では、児童の交通事故防止のため、県で示されている交通事故防止『5つの行動』をもとに指導を続けています。5月31日に1年生と4年生の児童を対象に、熊谷警察署安心安全課交通安全係の皆様や交通指導員の皆様などから道路の歩き方や交差点の渡り方、自転車に乗るときのきまりや注意することなどのご指導をしていただきます。御家庭でも、登下校や出かけた時の道路の歩き方、本校の自転車乗りの決まり（ヘルメットを着用する。1年～3年は、大人と一緒に。4年以上は学区内）を守る。歩きでも自転車に乗るときでも飛び出しを絶対にしない等、交通事故防止についてご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

